

水戸教育事務所だより

すぐ寄り添う事務所～「転ばぬ先の杖」として～

第19号
2023年12月5日



中学生に届け！ 教員としての楽しさ・魅力!!

先生に
なりたい！



オン
ライ
ン
で



対
面
で

11月18日（土）、教員という職業に興味のある中学生を対象に、県教育研修センターを会場として、オンラインと参集のハイブリッド型で「中学生のための教職セミナー」を開催し、中学生37名が参加しました。

協力者である小・中学校教諭や養護教諭、栄養教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭の8名の先生は、生徒たちからの質問に丁寧に応えながら、教員としての楽しさや喜び、教員の魅力を存分に伝えました。

参加した生徒たちからは、「いろいろな先生の話聞いて、教師の仕事についての考え方が変わりました。楽しそう、先生になりたい！と思いました。」「中学校の先生だけではなく、養護教諭や栄養教諭の先生の話聞いて良かったです。聞きたいことがすべて聞ける時間があつたのでたくさん話をする事ができました。」等の感想がありました。

今後も、私たちの仲間を増やしていけるように、皆さんとともに、教員としての魅力を発信し続けていきたいと思います。そして、次年度もより多くの中学生がこの事業に参加するよう願っています。

ご協力いただいた先生方（順不同）

- 東海村立白方小学校 関 佑樹先生
- 常陸大宮市立大宮北小学校 清水 梨沙先生
- 水戸市立第五中学校 田家 邦彦先生
- 那珂市立第一中学校 井上 裕貴先生
- 水戸市立双葉台中学校 養護教諭 渡邊 菜々子先生
- 笠間市立岩間第一小学校 栄養教諭 矢口 友子先生
- 県立笠間高等学校 仲田 昂平先生
- 県立美浦特別支援学校 鈴木 美沙希先生

春夏冬話(あきない話)

「離見の見」 ～いまの時代、トラブル対応や危機管理で欠かせない視点として～

明け方4時、寝ぼけ眼でラジオをつけると聞き覚えのある声。声の主は“ジャーパネット♪ ジャパネット♪”のテーマソングで有名な大手通販会社創業者・高田明さん。

「NHKラジオ深夜便」の4時台のコーナー「明日へのことば」でのインタビューでした。業種は異なりますが、学校現場にも通じる「ためになる話」が次々と展開されました。表題の「離見の見」は、放送の中で高田氏から紹介されたWordです。

高田氏は、テレビショッピングにおいて重要視していたのが「離見の見」と語りました。元は室町時代の能楽師である世阿弥の教えだそうです。世阿弥は舞台に立つときの視点として、「我見」「離見」「離見の見」の3つの視点があると説きました。我見とは自分から客席を見る視点、離見とは客が舞台上の自分を見る視点、離見の見とは自分が客席にいるつもりで舞台上の自分を見る視点だそうです。いま風に言い換えれば、「主観」「相手の主観」「メタ認知」となります。

売る側が商品の特徴や性能を一方向的に説明して購入を勧める「主観」だけでは視聴者の心に届かない。一方で、値段をどこまでも下げればよいという「相手の主観」だけでは商売として成り立たない。そこで高田氏は、視聴者がテレビの前で“商品を紹介する自分”を見ている光景を思い描き、俯瞰して自分を眺め、伝え方の方法まで考えたそうです。「伝える」のではなく「伝わる」ことを何より大事にしました。

生徒同士、生徒と教員、教員と保護者など、学校では日々の関わりの中で様々なトラブルが生じます。教員が当事者だと「我見」に陥りがちなので注意が必要です。寄り添うことは大事ですが相手の主観に沿った対応だけでは本質的な解決に至らず、問題の解決を遅らせたり新たな問題の誘因となったりします。自分の主体性をもちつつも「離見の見」で方策を立てることが必要です。「この対応で本当に良いのだろうか？社会一般から受け入れられるのだろうか？」という視点が欠かせない時代になりました。(by T・M)

